

『日本目録規則2018年版』準拠後の
NACSIS-CAT

国立情報学研究所

解説編

具体例で確認

書誌記述を読み解こう：雑誌の例

書誌を作成してみよう：図書例

関連を表現してみよう

【凡例】

コーディングマニュアル参照（緑色）

NCR2018年版参照（赤枠）

WebUIPの画面例（水色）

4.1 ID &コードブロック

体现形 #2.17.1.1.9 図版

TR: 情報の科学と技術 / 情報科学技術協会 [編] ||

これは「セルフラーニング教材」CAT編：図書コース・雑誌コースの補足教材、「『日本目録規則2018年版』準拠後のNACSIS-CAT」の解説編です。この教材は、考え方の基本を説明した目的編と、作業の具体例で示す解説編に分かれています。

解説編は、3つのパートに分かれています。

一つ目は、「書誌記述を読み解こう：雑誌の例」です。雑誌書誌のデータを読みながら、新しいコーディングマニュアルの参照箇所を解説します。

二つ目は、「書誌を作成してみよう：図書例」です。新しいコーディングマニュアルに従って、図書書誌を作成する作業を解説します。

三つ目は、「関連を表現してみよう」です。二つ目の図書書誌を確認しながら、著者名典拠とのリンクについても解説します。

実際にはここでは説明できない、いろいろなケースがありますので、コーディングマニュアルの見方の参考にしてください。

なお、NACSIS-CATの操作の画面は、国立情報学研究所が提供しているクライアントシステム「WebUIP」の画面例です。各参加館でお使いのシステムでの表示形式は、それぞれのベンダーにご確認ください。

コーディングマニュアルは緑色、NCR2018年版は赤枠の吹き出しで、WebUIPの画面例は水色で示します。

コーディングマニュアルの章立ての変更

NCR2018年版準拠後コーディングマニュアル

第0章 総則
第1章 データ記入総則

第2章 図書書誌データ
第3章 図書書誌データ(親書誌)

第4章 雑誌書誌データ

第5章 著者名典拠データ

第6章 著作(統一書名典)典拠データ
...

旧コーディングマニュアル

第0章 総則
第1章 データ記入総則

第2章 和図書書誌データ
第3章 和図書書誌データ(親書誌)
第4章 洋図書書誌データ
第5章 洋図書書誌データ(親書誌)

第6章 和雑誌書誌データ
第7章 洋雑誌書誌データ

第8章 著者名典拠データ(日本名:個人名)
第9章 著者名典拠データ(日本名:団体名)
第11章 著者名典拠データ(日本名以外:個人名)
第12章 著者名典拠データ(日本名以外:団体名)
第13章 著者名典拠データ(日本名以外:会議名)

第14章 統一書名典拠データ(日本名)
第15章 統一書名典拠データ(日本名以外)
...

具体例に入る前に、コーディングマニュアルの章立てについて説明します。目的編で説明したとおり、和資料、洋資料ともにNCR2018年版に準拠することになりましたので、コーディングマニュアルの章立ても、和洋の区別がなくなりました。

この教材では主に和資料の例を説明しますが、洋資料の場合も、コーディングマニュアルの同じ章を参照してください。

また、改定に併せて、これまでのコーディングマニュアルで本文が未作成だった章も、多くを削除しています。

これまでと項番が大きく異なりますので、参照する際は注意してください。

目録用言語

- ・ 和資料…日本語
- ・ 洋資料…英語

← 1.1.1B〔目録用言語〕
← 1.1.1C（選択事項）

（目録用言語ごとのデータ記述例）

2.2.1F4.3

【中略】

TR:十五年戦争と満鉄調査部 / 石堂清倫 [[ほか] 著||ジュウゴネン センソウ ト マンテツ チョウサブ
NOTE:その他の著者: 野間清, 野々村一雄, 小林庄一

TR:Global sport management education : policy, curriculum and implementation / Mike Rayner
[and three others]

NOTE:Other authors: Tom Webb, Ruth Sibson, Jacob K. Tingle

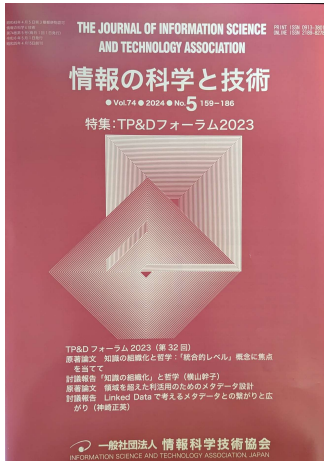
なお、目録用言語については、これまで通り、和資料は日本語、洋資料は英語とすることが原則です。

詳しくは、「1.1.1B 目録用言語」と「1.1.1C 選択事項」を参照してください。なお、例えば、2.2.1F4.3にあるように、コーディングマニュアルのデータの記述例には、目録用言語が日本語のものと英語のものがあります。日本語と英語では、略語や定型句なども異なりますので、適宜区別して参照してください。

コーディングマニュアルを参照して
書誌記述を読み解こう

Step 1

書誌データを検索する



TITLE=	情報の科学と技術				
AUTH=					
ISSN=		CODEN=		NDLPN/LCCN=	
PUB=		YEAR=			
PLACE=		CNTRY=		LANG=	
SH=					
FTITLE=		AKEY=			
ID=		FID=			
FILE=					

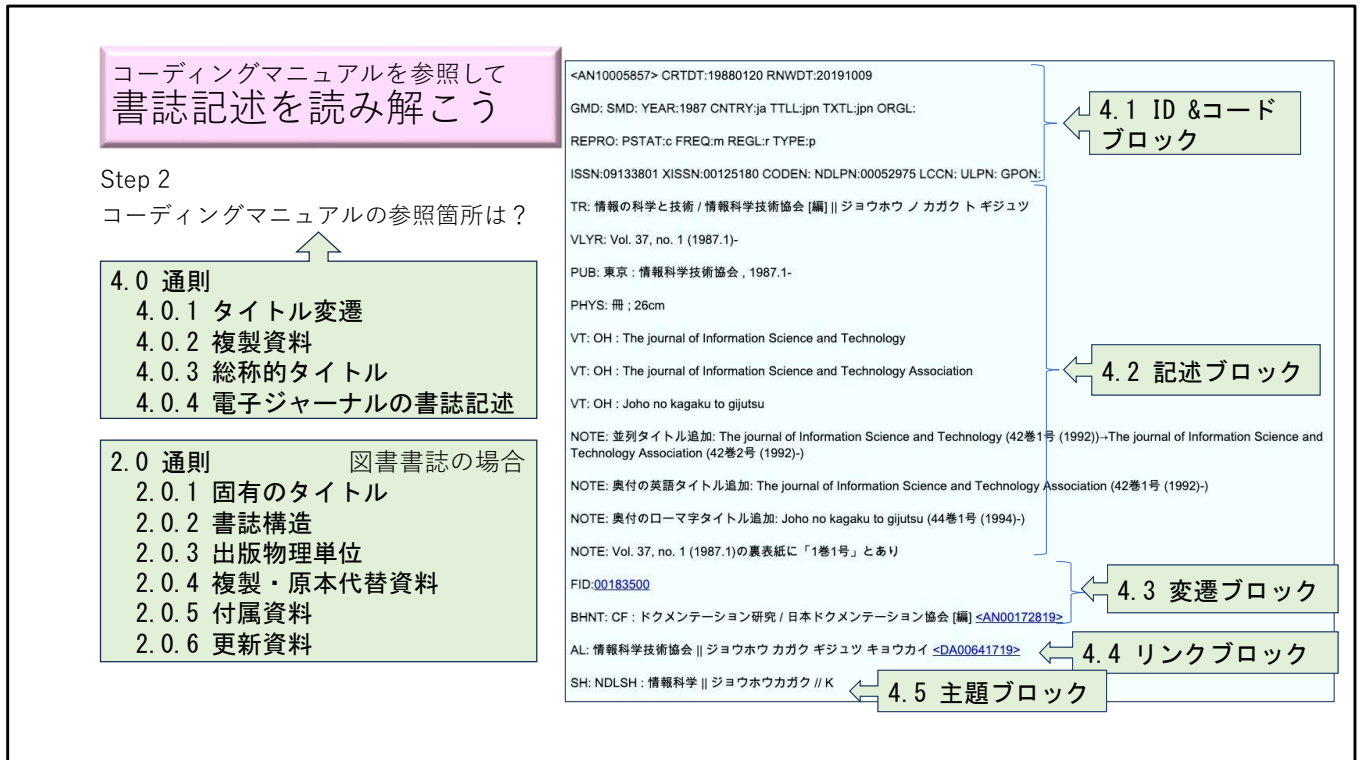
検索結果 4 件

- SERIAL <AA11530260> 情報の科学と技術 : The journal of information science and technology association / 情報科学技術協会 [編] = / Information Science and Technology Association, Japan . -- 37巻1号 (昭62.1)- . w .
- SERIAL <AA11548051> ドキュメンテーション研究 : 情報の科学と技術 / 情報科学技術協会 [編] = / Information Science and Technology Association, Tokyo . -- Vol. 10, no. 1 (1960.1)- = 通巻56号 (1960.1)- . w .
- SERIAL <AN00172819> ドキュメンテーション研究 / 日本ドキュメンテーション協会 [編] . -- No. 49 (1958.9)-no. 49 (1958.9) ; V. 9, no. 1 (1959.1)-v. 36, no. 12 (1986.12) .
- SERIAL <AN10005857> 情報の科学と技術 / 情報科学技術協会 [編] . -- Vol. 37, no. 1 (1987.1)- .

それでは、作業の具体例を説明していきます。

最初に、雑誌『情報の科学と技術』を例に、書誌記述を読み解きながら、コーディングマニュアルの参照方法を確認しましょう。

まずは、雑誌書誌を検索します。検索キーとして「情報の科学と技術」を入力したところ、4件ヒットしました。探している雑誌は4番にあります。書誌IDをクリックして書誌詳細画面を表示しましょう。



『情報の科学と技術』の書誌詳細画面です。

各フィールドはブロックごとに分かれており、上から順に、「ID&コードブロック」、「記述ブロック」、「変遷ブロック」、「リンクブロック」、「主題ブロック」です。コーディングマニュアルはこのブロックごとのフィールド名で並んでいますので、例えばTRフィールドについて調べるには、コーディングマニュアルの「4.2 記述ブロック」の中から、「4.2.1 TR」を参照します。また、第4章雑誌書誌の冒頭に、通則としてタイトル変遷、複製資料、総称的タイトル、電子ジャーナルの書誌記述の説明があります。例えば変遷ブロックの記述方法の前提として、タイトル変遷とみなすかどうかの判断は4.0.1を確認します。

第2章図書書誌の通則には、固有のタイトル、書誌構造など、書誌単位の基本的な捉え方や、複製資料や付属資料、更新資料の場合の記述方法が書かれていますので、必要に応じて参照します。

コーディングマニュアルを参照して
書誌記述を読み解こう

Step 3

NCR2018年版準拠で雑誌書誌の主な変更点(1)

TR: 情報の科学と技術 / 情報科学技術協会 [編] || ジョウホウ ノ カガクト ギジユツ

VLYR: Vol. 37, no. 1 (1987.1)-

4.2.1 TRフィールド

- ・ 回次等を含むタイトルは、和雑誌もこの部分を省略記号(...)に置き換える

4.2.3 VLYRフィールド

- ・ 【巻次】 序数は当該言語の標準的な序数を示す表記の形式で記録するが、略語は情報源に略語が表示されている場合に限り使用し、日本語の「第」は省略しない
- ・ 【年月次】 月名は数字に変換せず、情報源の表示通りに記録する (AACR2の略語表は用いない)

例) VLYR: 第1巻第1号 (大1. 12)-

(元の記述方法)

1巻1号 (大1. 12)-

例) VLYR: Volume 1 (July 7, 1967)-volume 31, no. 396 (January 31, 1975)

(元の記述方法)

Vol. 1 (July 7, 1967)-v. 31, no. 396 (Jan. 31, 1975)

NCR2018年版準拠による記述方法の変更点の主なものをフィールドごとに紹介します。赤が変更後の記述方法です。なお、この変更は遡及的適用はしませんので、既存のデータを読み解く際には、新ルールと違って間違いとはみません。

まず、TRフィールドでは回次等を含むタイトルは、これまで和雑誌では回次の部分を削除していましたが、洋雑誌と同様に省略記号に置き換えることとなります。

次に、VLYRフィールドは転記の原則のフィールドですが、いくつかの例外に変更がありました。

巻次について、洋雑誌ではAACR2の略語を使用していましたが、情報源に略語が表示されている場合に限り使用することに変更になりました。例で示すように、情報源に「Volume」や「no.」と表示されていれば、修正せずに、そのまま転記します。

また、和雑誌の「第」の省略は例外から削除されました。例で示すように、情報源に「第1巻第1号」と表示されていたら、「1巻1号」とはせず、そのまま記述します。

年月次についても、洋雑誌では月名を情報源のとおり記録することになりましたので、例のように、「January」と書きます。

ただし、和雑誌の元号を1文字に省略する点の変更ありませんので、「大正元年」と表示されていても「大1」と記述します。

コーディングマニュアルを参照して
書誌記述を読み解こう

Step 3

NCR2018年版準拠で雑誌書誌の主な変更点(2)

PUB: 東京 : 情報科学技術協会 , 1987.1-

PHYS: 冊 ; 26cm

4.2.4 PUBフィールド

- ・ 頒布地・頒布者、製作地・製作者の記述方法の変更

後ほど図書で具体的に説明

4.2.4 PHYSフィールド

- ・ 必須2に（完結している場合は数量を必ず記述する）
- ・ 付属資料はキャリア種別と数量を記録

PUBフィールドは、頒布地・頒布者、製作地・製作者の記述方法が変更になりました。この点については、後ほど図書の方で具体的に説明します。

PHYSフィールドは、「必須2」に変更になり、完結している場合は数量を必ず記述することになりました。ただし、完結していても物理的な数量が不明な場合などは、従来通り「冊」や「Volumes」といった単位のみでも構いません。また、付属資料はキャリア種別と数量を記録することになります。このことも、図書の方で具体的に説明します。

コーディングマニュアルを参照して
書誌記述を読み解こう

Step 3

NCR2018年版準拠で雑誌書誌の主な変更点(3)

VT: OH : The journal of Information Science and Technology

VT: OH : The journal of Information Science and Technology Association

VT: OH : Joho no kagaku to gijutsu

VT:OH はNOTEに書いてあるその他のタイトル

NOTE: 並列タイトル追加: The journal of Information Science and Technology (42巻1号 (1992))→The journal of Information Science and Technology Association (42巻2号 (1992)-)

NOTE: 奥付の英語タイトル追加: The journal of Information Science and Technology Association (42巻1号 (1992)-)

NOTE: 奥付のローマ字タイトル追加: Joho no kagaku to gijutsu (44巻1号 (1994)-)

4.2.7 NOTEフィールド

表現種別・機器種別・キャリア種別についての注記の追加

後ほど図書で具体的に説明

4.2.6 VTフィールド

その他のタイトルの種類コード「LT」追加
(本タイトルの軽微な変化の注記とセットで使用する)

例 TR:Outline of Japanese tax

VT:LT:An outline of Japanese taxes

NOTE:Later title proper: An outline of Japanese taxes, no. 134 (1990)-

和雑誌の注記例

NOTE:後続タイトル:少女倶楽部 (-第24巻第3号 (昭21.3))→少女クラブ (第24巻第4号 (昭21.4)-)

(元の記述方法)

VT:OH:An outline of Japanese taxes

NOTE:Title varies slightly: An outline of Japanese taxes, no. 134 (1990)-

VTフィールドの変更点として、新たに「その他のタイトルの種類コード」LTが追加されました。LTというコードは「本タイトルの軽微な変化」の注記とセットで使用します。

これまで、本タイトルの変化が軽微だと判断した場合は、新規に書誌を作成せず、NOTEに「本タイトルの軽微な変化」という注記を書いて、VTフィールドにはその他のタイトルの種類コード「OH」として変化後のタイトルを記述していました。今後は、本タイトルの軽微な変化の場合には種類コードは「LT」を使います。ただし、軽微な変化以外のその他のタイトルは、これまで通り「OH」で記述します。

「4.2.6 VT」フィールドの説明に「本タイトルの軽微な変化」の洋雑誌の例も示されています。注記の定型語句も「Title varies slightly:」が「Later title proper:」に変わっていますので、注意しましょう。

なお、VTの種類コードに追加された「ET」は、雑誌ではなく更新資料の場合の先行タイトルを記録する時に用います。

NOTEフィールドでは、新たに「表現種別・機器種別・キャリア種別に関する注記」が追加されました。このことについては、後ほど図書の方で具体的に説明します。

コーディングマニュアルを参照して
書誌記述を読み解こう

Step 3

NCR2018年版準拠で雑誌書誌の主な変更点(4)

FID:00183500

BHNT: CF : ドクメンテーション研究 / 日本ドクメンテーション協会 [編] <AN00172819>

AL: 情報科学技術協会 || ジョウホウ カガク ギジュツ キョウカイ <DA00641719> 編者

← 4.3 変遷ブロック

← 4.4 リンクブロック

4.0.1 タイトル変遷

← 軽微な変化の記述例は、

4.2.6 VTフィールド, 4.2.7 NOTEフィールド

判断基準 (本タイトルの軽微な変化は和洋統合)

4.4.1 ALフィールド

その他の情報として、個人・家族・団体との関連指示子を記入
洋雑誌の例) AL:Library Association (Malta) < > editor

後ほど図書で具体的に説明

4.0.4 電子ジャーナルの書誌記述

← 4.2.9 IDENTフィールド

IDENTフィールドは従来通り電子ジャーナルの場合のみに使用します

FIDとBHNTフィールドは、参加館からの報告に基づいて国立情報学研究所が記述するフィールドです。コーディングマニュアルの4.3にはそのことが書かれています。参加館は総則の「4.0.1タイトル変遷」を参照して、本タイトルの重要な変化か軽微な変化かを判断します。なお、タイトル変遷基準は、和洋統合された形に変更になりました。先ほど説明した軽微な変化と判断した場合の注記の記入例は、VTおよびNOTEフィールドの説明にあります。

また、「4.4.1 AL」フィールドの主な変更点は、その他の情報として個人・家族・団体との「関連指示子」を記入できるようになったことです。このことについては、後ほど図書の例で具体的に説明します。

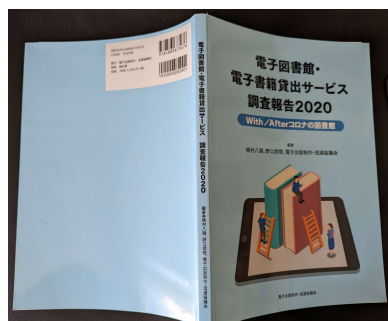
最後に、4.2.9のIDENTフィールドについては、電子ジャーナルの場合のみ使用するフィールドですので、通則の4.0.4「電子ジャーナルの書誌記述」も参照しましょう。

ここまで雑誌を例に、コーディングマニュアルを参照して書誌を読み解く方法を確認してきました。この例ではEDフィールド等について触れませんでした。ほかにも、細かな変更点がありますので、実務では慣れるまでコーディングマニュアルを常に参照するよう心がけましょう。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.1 TR

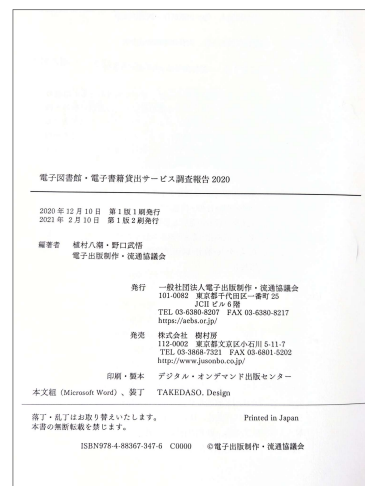
Step 1.TRの情報源は？
このケースではタイトル・ページ
でOK



裏表紙 背 表紙



タイトル・ページ



奥付

つぎに、コーディングマニュアルを参照しながら図書書誌を作成してみましよう。画面は表紙、背、裏表紙と、タイトル・ページと奥付を示しています。この図をもとに、これからデータの記入方法を解説します。なお、実際の業務ではすでに対象資料の書誌があるか、必ず最初に検索します。ここでは書誌がなかった場合を想定して説明します。

まず、記述ブロックのTRフィールドから考えてみましょう。TRフィールドは「転記の原則」のフィールドですから、ステップ1として、どの情報源の表示を転記するか確認していきます。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.1 TR

Step 1.TRの情報源は？

「このケースではタイトル・ページでOK」

E1(本タイトルの情報源)

本タイトルの情報源は、タイトル・ページとする。規定の情報源以外から得た情報は、角括弧([])に入れて補記する。

E1.1(タイトル・ページ以外を優先情報源とする和図書等)
和資料については、タイトル・ページがあっても、その情報が不十分な場合は、次の優先順位で優先情報源を選定することができる。この場合は、必要に応じてタイトル・ページ以外のものを情報源とした旨を、注記として記録する。

- a) 奥付
- b) 背・表紙
- c) キャプション
- d) ジャケット

旧2.2.1E1

TRフィールドのデータ要素の情報源は「日本目録規則1987年版改訂3版」(以下「NCR87R3」と略す)2.0.3.2(各書誌的事項の情報源)の「ア)タイトルと責任表示」の規定により、標題紙(標題紙裏を含む)、奥付、背、表紙とする。

コーディングマニュアルの図書のTRフィールド、2.2.1のE1に、本タイトルの情報源は「タイトル・ページ」だと書かれています。以前のコーディングマニュアルでは、和図書の場合「標題紙、奥付、背、表紙」のいずれかでしたが、「タイトル・ページ」とすることに変わりました。

その下に、「和資料については、タイトル・ページがあっても、その情報が不十分な場合」について、その他の情報源を選定できることが書かれていますが、このケースではタイトル・ページの情報不十分とは考えなくてよいでしょう。

記述ブロック 2.2.1 TR

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

Step 2.TRのデータ要素は？
 「本タイトル」
 「タイトル関連情報」
 「責任表示」

F1(本タイトル)
 本タイトルとなるものは、「目録情報の基準 第6版」で規定されている「固有のタイトル」である。
F1.1(データ記入の原則)
 ア) 字体や字の大きさ、印刷上の強調の程度などといったレイアウトや表現のしかたから、それが本タイトルの一部分と判断できる場合は、その語句を含めたタイトルを本タイトルとする。本タイトルの一部としない語句については、該当する書誌要素を記録する個所に記録する。

F2(タイトル関連情報)
 タイトル関連情報は、本タイトルと同一の情報源上に表示された、本タイトル及び並列タイトル以外のタイトル、あるいは本タイトルに補完、限定説明を加える語句である。

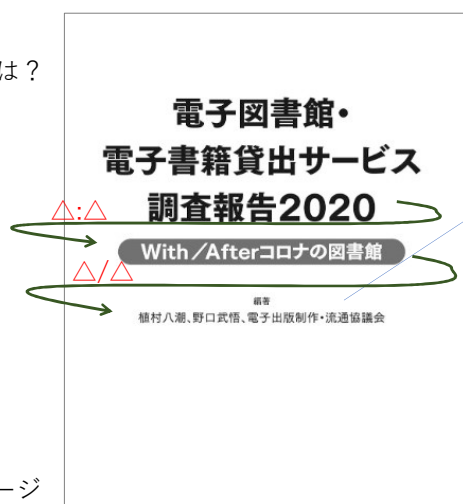
次のステップでは、情報源であるタイトル・ページからTRのデータ要素を確認していきます。データ要素のことは、NCR2018年版では「エレメント」と呼びます。コーディングマニュアルでは両方使われていますが、ほぼ同じ意味だと考えてください。

中央に大きく表示されている「電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告2020」はこの資料の名称として他と区別する固有のタイトル、すなわち「本タイトル」とであると判断できます。その下の「With/Afterコロナの図書館」は何でしょう？「タイトル関連情報」とは、「本タイトルと同一の情報源上に表示された、本タイトル及び並列タイトル以外のタイトル、あるいは本タイトルに補完、限定説明を加える語句である。」となっていますのでこれは「タイトル関連情報」と捉えて良いと思います。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.1 TR

Step 2.TRのデータ要素は？
「本タイトル」
「タイトル関連情報」
「責任表示」



タイトル・ページ

F4(責任表示)

資料の知的・芸術的内容の創作または実現に、責任を有するか寄与した個人・家族・団体 に関する表示を、責任表示として記録する。

F4.1 (データ記入の原則)

責任表示とするものの範囲については、NCR2018#2.2.0.1 (記録の範囲)の規定に従う。ただし、所定の情報源上にある監修者、監訳者等については、著者、訳者など、より直接的に関与した責任表示がある場合は、それを責任表示とし、監修者、監訳者等はNOTEフィールドに記録する。より直接的に関与した責任表示がない場合には、監修者、監訳者等を責任表示として記録する。

その下に編著者が表示されています。責任表示の情報源も「本タイトルと同一の情報源上に表示されたもの」ですから、タイトル・ページによって記述することが基本です。なお、記録するものの範囲は、NCR2018#2.2.0.1の規定に従って、直接的に関与していることを目安に責任表示と判断しますので、この場合、編著者を責任表示と捉えます。もし、本タイトルと同一の情報源上に責任表示がない場合は、「本タイトルの情報源の優先順と同様の順で選定する。」となっているので、これまでと同様に奥付などからそのまま記述することができます。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.3 PUB

Step 3.PUBの情報源は？
「このケースでは本タイトルと同一の情報源に出版者が表示されていないので、奥付から転記する？」

タイトル・ページ

**電子図書館・
電子書籍貸出サービス
調査報告2020**

With/Afterコロナの図書館

編者 植村八潮、野口武悟、電子出版制作・流通協議会

奥付

電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2020

2020年12月10日 第1版1刷発行
2021年2月10日 第1版2刷発行

編著者 植村八潮・野口武悟
電子出版制作・流通協議会

発行 一般社団法人電子出版制作・流通協議会
101-0082 東京都千代田区一番町 25
1217ビル6階
TEL 03-6380-8207 FAX 03-6380-8217
<https://ebooks.jp/>

発売 株式会社 植村屋
112-0002 東京都文京区小石川 5-11-7
TEL 03-3868-7321 FAX 03-6801-5202
<http://www.jinouchi.co.jp/>

印刷・製本 デジタル・オンデマンド出版センター
英文組 (Microsoft Word)、装丁 TAKEDASO, Design

著丁・乱丁はお取り替えいたします。 Printed in Japan
本書の無断転載を禁じます。

ISBN978-4-88367-347-6 C0000 ©電子出版制作・流通協議会

2.2.3E 【データ要素の情報源】
PUB フィールドのデータ要素の情報源は次の優先順位で情報源を選定する。
a) 本タイトルと同一の情報源 (2.2.1E)
b) 資料自体の他の情報源
c) 資料外の情報源
ただし、出版地、頒布地、製作地、制作地は、それぞれ出版者、頒布者、製作者、制作者と同一の情報源を第一の情報源として選定する。

旧2.2.3E
PUBフィールドのデータ要素の情報源はNCR87R3 2.0.3.2(各書誌的事項の情報源)の「ウ)出版・頒布等」の規定により、**標題紙(標題紙裏を含む)、奥付、背、表紙とする。**

PUBフィールドも同様に、まずは情報源はどこか確認しておきましょう。これまでは標題紙、奥付、背、表紙でしたが、NCR2018年版ではこのように変わりました。

「PUB フィールドのデータ要素の情報源は次の優先順位で情報源を選定する。

- a) 本タイトルと同一の情報源(2.2.1E)
- b) 資料自体の他の情報源
- c) 資料外の情報源

ただし、出版地、頒布地、製作地、制作地は、それぞれ出版者、頒布者、製作者、制作者と同一の情報源を第一の情報源として選定する。」となっています。

このケースでは、「a) 本タイトルと同一の情報源」、すなわちタイトル・ページに出版等に関する表示がありませんので、「b) 資料自体の他の情報源」から転記します。奥付に出版地と出版者等が表示されていますので、奥付をもとに記述します。

記述ブロック 2.2.3 PUB

コーディングマニュアルを参照して
 書誌を作成してみよう

Step 4. PUBのデータ要素は？
 「出版地等」「出版者等」「出版年等」
 「役割表示」このケースでは出版と頒布

PUBP:	東京
PUBL:	電子出版制作・流通協議会
PUBDT:	2020.12
PUBF:	<input type="checkbox"/>

d 頒布表示
m 製作表示
p 制作表示
c 著作権日付

PUBP:	東京
PUBL:	樹村房
PUBDT:	
PUBF:	d

2.2.3G 【フィールドの繰り返し】
 出版地、頒布地、製作地、制作地と出版者、頒布者、製作者、制作者がそれぞれ対となっている場合は、それぞれの対ごとに PUB フィールドを作る。その組合せが複数ある場合は、PUB フィールドを繰り返す。
 記録に際し、役割が出版以外のときは、役割表示コードを記入する。(→ 付録 1.6 出版等に関するコード表)

奥付

2020年12月10日 第1版1期発行
2021年2月10日 第1版2期発行

編著者 榎村八潮・野口武悟
電子出版制作・流通協議会

発行 一般社団法人電子出版制作・流通協議会
101-0082 東京都千代田区一番町25
JCIビル6階
TEL 03-6380-8207 FAX 03-6380-8217
https://aebs.or.jp/

発売 株式会社 樹村房
112-0002 東京都文京区小石川5-11-7
TEL 03-3868-7321 FAX 03-6801-5202
http://www.jusonbo.co.jp/

印刷・製本 デジタル・オンデマンド出版センター
本文組 (Microsoft Word)、装丁 TAKEDASO, Design

落丁・乱丁はお取り替えいたします。 Printed in Japan
本書の無断転載を禁じます。

ISBN978-4-88367-347-6 C0000 ©電子出版制作・流通協議会

WebUIPでの表示例

PUB:東京:電子出版制作・流通協議会,2020.12
PUB:東京:樹村房 # d

奥付をよく見ると、発行と発売が表示されています。PUBフィールドは、「2.2.3Gフィールドの繰り返し」に、このようになっていますので、この例では出版と頒布として2回繰り返します。

まず、奥付の「発行」という表示を元に、PUBP, PUBL, PUBDTをこのように記述します。PUBF, すなわち「役割表示コード」については、コーディングマニュアルには、「役割が出版以外のときは、役割表示コードを記入する」とあります。「発行」は、ここでの役割は「出版」だと言えますので、「役割表示コード」は不要です。

次に、奥付の「発売」という表示を元に、PUBP, PUBLをこのように記述します。「発売」は、役割で言うと「頒布」になりますので、PUBFには「頒布」のコード「d」を記入するという訳です。

このようにフィールドを繰り返して、「役割表示コード」を入力するとこのようになります。なお、「役割表示コード」はここに挙げた4種類です。

これまでは、PUBフィールドを繰り返す場合、出版年は最後のPUBフィールドに記述することになっていました。NCR2018年版準拠後は、「出版」の役割を記述しているPUBフィールドの中に出版年を記述することになりましたので、このように記入します。なお、PUBフィールドの入力を終えた後、WebUIPでの表示はこのように、繰り返したPUBフィールドが2行に渡って表示されます。

国立情報学研究所

15

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.4 PHYS

Step 5. PHYSの情報源とデータ要素は？
「数量」「その他の形態的細目」「大きさ」
「付属資料」

2.2.4E【データ要素の情報源】

当該出版物全体

2.2.4F【データ記入の原則】

キャリア種別ごとに形態的表示は異なる。

目録規則の当該箇所参照。

#2.14～#2.33 <キャリアに関する情報>

和資料の場合
洋資料の場合
省略形「p.」は使わない

F2 (数量)

F2.1

冊子 1 冊の資料は、キャリアの種類を示す用語および冊数は記録せず、表示されたページ付の最終数に、「p」、「丁」、「枚」、「欄」の語を付加して記録する。

語句を用いたページ付、あるいはアラビア数字以外の数字を用いたページ付けの場合は、アラビア数字に置き換えて記録する。ただし、ローマ数字は、表示されている通りに記録する。

239p
xcvii pages
30 pages (「thirty pages」とはしない。)

PHYSフィールドの情報源はNCR2018年版では「資料自体」となっています。そして、2.2.4Fの「データ記入の原則」には、「キャリア種別ごとに形態的表示は異なる」と書かれていて、目録規則を参照するように指示されています。NCR2018年版の <キャリアに関する情報> は#2.14から#2.33まで大部ですので、冊子の場合とシートの場合がコーディングマニュアルに転記されています。その他のキャリア種別の場合はNCR2018年版を参照しましょう。数量の記入例として書かれている上の例「239p」は和資料の場合です。単位を「pages」と記述している下の例は、洋資料の場合です。コーディングマニュアルには書かれていませんが、NCR2018年版には「目録用言語として英語を用いる場合」の説明があります。これまで、洋資料ではページ数を「p.」と記述していましたが、英語では省略形は使わない方向になり、pagesと綴ります。その他の形態的細目や、大きさ、付属資料についてもNCR2018年版を参照しましょう。NCR2018年版にも「目録用言語として英語を用いる場合」と日本語を用いる場合の例が混在していますので、その点も注意が必要です。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.4 PHYS

図版が本文のページ付に含まれない場合は、「数量」として記録

PHYS:246p, 図版32p; 26cm

Step 6. PHYSの図版は？
「数量」「その他の形態的細目」「大きさ」
「付属資料」

体现形 #2.17.1.1.9 図版

図版が本文のページ付に含まれない場合は、それが一箇所
にまとめられているか、資料全体に分散しているかを
問わず、#2.17.1.1.9.1、#2.17.1.1.9.2に従って、そのペー
ジ数等を記録する。

F3 (その他の形態的細目)

図は、包括的な用語「挿図」または
「illustration」を記録するか、そ
の代わりに、またはこれに付加し
て、NCR2018 表 5.15.0.2 の用語を
用いて図の種類を記録する。目録用
言語として英語を用いる場合は、必
要に応じて複数形を用いる。

本文に含まれている図は、「その他の形態的細目」として記録

PHYS:xi, 205p; 挿図; 26cm

目録用言語として英語を用いる場合は、

PHYS:xi, 205 pages; illustration; 26 cm

表現形 #5.15 図

図版などがあることの情報には、「数量」として記録する場合と、「その他の形態的細目」として記録する場合があります。PHYSフィールドの「数量」についてはNCR2018年版の体现形の図版の項目#2.17.1.1.9を参照します。「本文のページ付に含まれない場合は」数量として記録することになっていて、本文ページの後ろに、カンマで区切って記録します。

今回のケースのように本文に図が含まれていることを表すには、「その他の形態的細目」として、数量の後ろに、区切り記号スペースコロンスペースを置いて記録することができます。この場合は、NCR2018年版の表現形の「図」の項目#5.15を参照します。「目録用言語として英語を用いる場合」は、「ill.」と略語を使わずに「illustration」と記述します。

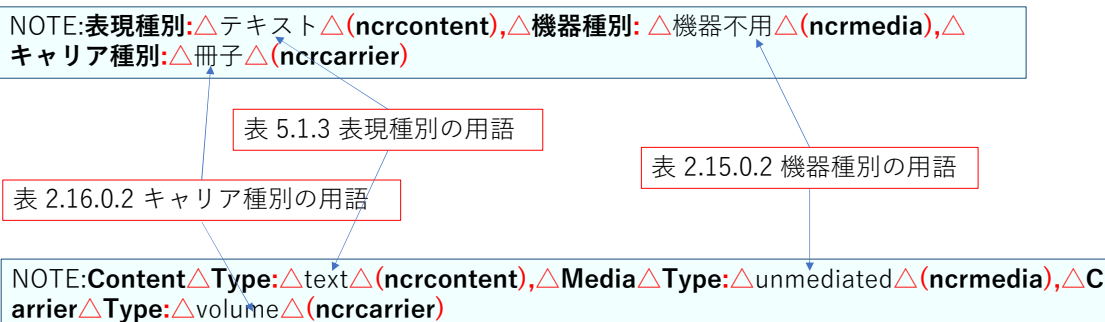
次に、資料の大きさの記述方法を確認しますが、ここは概ね変わりません。PHYSフィールドは「目録用言語として日本語を用いる場合」はこれまでとあまり変わりませんが、「目録用言語として英語を用いる場合」は、略語を使用しない点に注意しましょう。コーディングマニュアルの例示には、日本語の例と英語の例が混在していますが、英語では数字と単位の間スペースをおく習慣があるので、見分けることができます。

コーディングマニュアルを参照して
書誌を作成してみよう

記述ブロック 2.2.7 NOTE

Step 7. NOTEに追加された項目
「表現種別・機器種別・キャリア種別に関する注記」

太字及び記号（赤）は定型



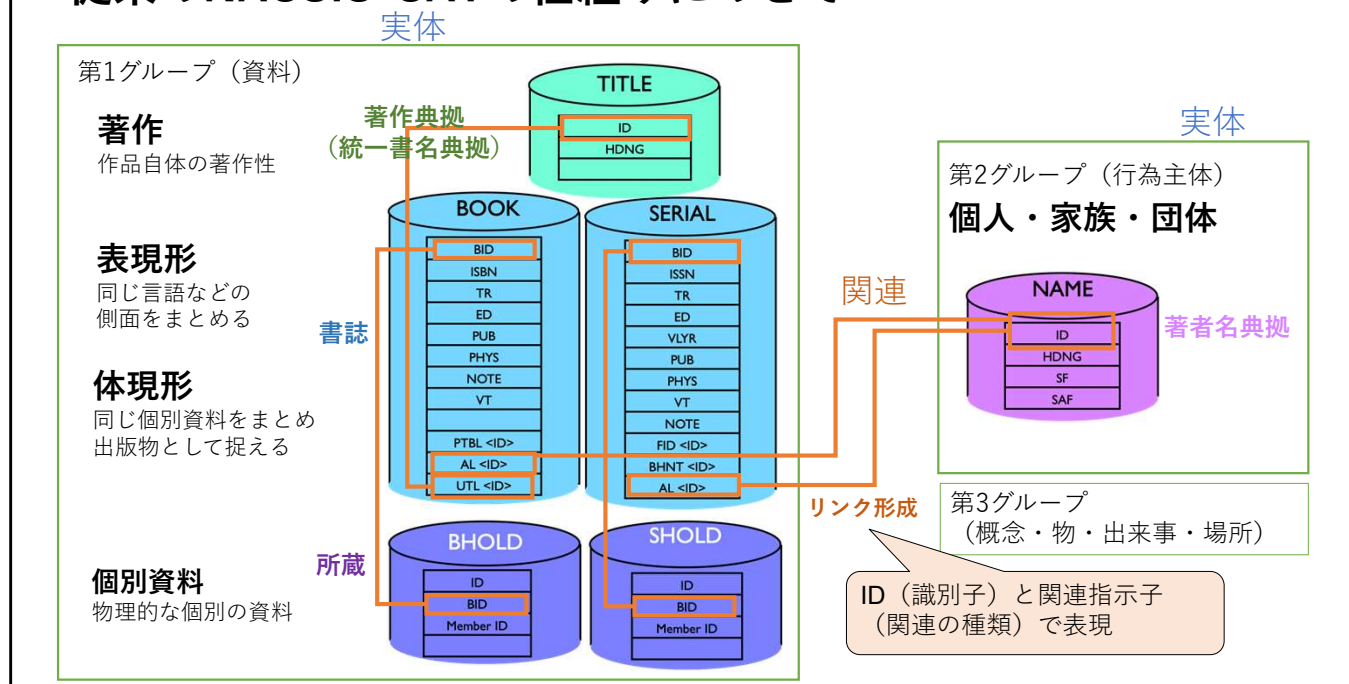
次にNOTEフィールドに新たに追加された項目を紹介します。

その一つが「表現種別・機器種別・キャリア種別に関する注記」です。NOTEフィールドは複数繰り返すことができますが、これは、必ず最初のNOTEフィールドに記述してください。

上が「目録用言語として日本語を用いる場合」、下が英語を用いる場合の記述例です。太字で示した部分と記号、及び三角で示したスペースは定型です。細字の部分には、NCR2018年版の表現種別の用語、機器種別の用語、キャリア種別の用語から該当するものを選択して記述します。

今回の例はテキスト、機器不要、冊子ですので、この例のようになります。

従来のNACSIS-CATの仕組みにのせて



ここからは、先ほど作成した図書書誌データを例にして、関連について説明します。

目的編の動画で説明したとおり、NCR2018年版では、「実体」と「実体」を「関連」で繋ぐという考え方をします。

NACSIS-CATでは、主に、データとデータをリンクで繋ぐことで表現します。

コーディングマニュアルを参照して
関連を表現してみよう

リンクブロック 2.3.2 AL

Step 1. 著者名典拠データを検索！

TR: 電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告2020 : With/After コロナの図書館 / 植村八潮, 野口武悟, 電子出版制作・流通協議会編著 || デンシトショカン・デンシショセキカシダシサービスチョウサホウコク 2020 : With/After コロナノトショカン

検索	クリア	新規	リンク中断
AUTH=	植村, 八潮		
AKEY:	PLACE=	DATE:	
ID:	SAID:		
FILE:			

著者名典拠データは
重複データを作らないことが大事

正しい検索キーで、正確な検索を！

先ほど作成した図書書誌データに著者名リンクを作成しましょう。

TRを見ると、植村八潮、野口武悟、電子出版政策・流通協議会の、3つの編著者名が書いてあります。

まずは著者名典拠データを検索することは、これまでと変わりません。

著者名典拠データは、重複データを作らないことが大事です。

新しいデータを作る前に、必ず、著者名典拠データがすでにできているか、正しい検索キーで、正確に検索します。

コーディングマニュアルを参照して
関連を表現してみよう

第5章 著者名典拠データ

Step 2. データがなければ、著者名典拠データを作成してリンク形成

典拠形アクセス・ポイント（従来の標目より広義の概念）

・個人名の場合

優先名称,△識別要素||優先名称のヨミ

<DA17026461>

HDNG:植村,△八潮,△1956-||ウエムラ, ヤシオ

5. 2. 1. 1C

識別要素には著者の生没年、あるいは活動分野・職業をカンマのあとに記録する。

・団体名の場合

優先名称△(識別要素)||優先名称のヨミ

<DA18146196>

HDNG:電子出版制作・流通協議会||デンシ
シュッパン セイサク・リュウツウ キョウギカイ

5. 3. 2. 1D2 (識別要素)

団体名における識別要素は、同じ名称の団体が別にある場合、また、行政区分上同じ地名があつて識別の必要がある場合に記録する。

もし、著者名典拠データがなければ、これまでと同様、新しいデータを作成してからリンクを形成します。

ここでは、著者名典拠データを二つ作成します。

NCR2018年版に準拠して、これまでの標目は、より広い概念である「典拠形アクセス・ポイント」と呼ぶことになりました。

「典拠形アクセス・ポイント」は主に、「優先名称」、「識別要素」、「優先名称のヨミ」からできていて、実体を他の実体と区別するために必要な情報がまとめられています。

まず、個人の著者名典拠データを作成します。

個人名の優先名称の形式は「姓・カンマ・スペース・名」です。西洋人名の場合も姓名の順です。ここでは、「植村・カンマ・スペース・八潮」と書きます。識別要素を記述するための区切り記号は、カンマ・スペースになりました。生年が分かりましたので、優先名称の後ろに、「カンマ・スペース・1956・ハイフン」と書きます。なお、NCR2018年版に準拠する前のデータには、識別要素を丸かっこで囲んでいるものがありますが、今後はカンマ・スペースを使ってください。

次に、団体の著者名典拠データを作成します。

団体名で識別要素を記録する場合は、個人とは違い、丸かっこで括って記録します。今回の例では、同じ名称の別の団体と識別をする必要は無いと判断しましたので、識別要素は記載しませんでした。

コーディングマニュアルを参照して
関連を表現してみよう

Step 3. データがあれば、リンク形成し、関連指示子（関連の種類）を記述

TR: 電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告
2020 : With/Afterコロナの図書館 / 植村八潮, 野
口武悟, 電子出版制作・流通協議会編著 || …

典拠形アクセス・ポイント	AFLG:	<input type="checkbox"/>
典拠形アクセス・ポイントのヨミ	AHDNG:	植村, 八潮, 1956-
著者名典拠データID	AHDNGR:	ウエムラ, ヤシオ
その他の情報 →「関連指示子」	AHDNGVR:	
	AID:	DA17026461
	AF:	著者

リンクブロック 2.3.2 AL

E1.4.1 資料（著作・表現形）と個人・家族・団体との関連

著作・表現形と個人・家族・団体との関連を記録する。

記録に際しては、**関連の種類を示す関連指示子を使用する**（NCR2018 #44.1、付録C.2）。

【中略】

a) 創作者（著作と関連する個人・家族・団体）
著者/author, 編纂者/compiler, 作曲者/composer …

【中略】

ただし、NCR2018準拠以前に作成されたデータには、当該著者の役割を表す「著」「編」「訳」「comp.」「ed.」「ill.」等の語句が記録されているが、遡って修正は行わない。

リンク先のデータがあれば、図書書誌データのALフィールドでリンク形成をします。

リンクする著者名典拠データIDを入力すると、著者名典拠データの典拠形アクセス・ポイントが自動で入力されます。

NCR2018年版準拠で変わったのは、「その他の情報」の記述です。「その他の情報」には、関連の種類を示す「関連指示子」を記録することになりました。関連指示子はNCR2018年版#44.1、付録C.2の語彙から選んで使用しますが、一部の語彙はコーディングマニュアルにも載っています。

今回の資料は、TRの役割表示が「編著」となっていました。関連指示子の語彙の中から、「編著者」を探してみますが、ありません。このケースでは、創作に関与しているものと判断して、a)の創作者の中から、該当する「著者」を選択して、AFフィールドに記述しましょう。

なお、以前のデータでは、役割を表す「著」「編」「訳」「comp.」「ed.」「ill.」等の語句が記録されていますが、遡って修正は行いません。

記述ブロック 2.2.7 NOTE

コーディングマニュアルを参照して
関連を表現してみよう

Step 4. NOTEに追加された項目
「関連を記録する注記」

非構造的記述の例

NOTE:「電子図書館・電子書籍貸出サービス：調査報告」(2014-2019)の後継

または、構造的記述の例

NOTE:継続前(著作):「電子図書館・電子書籍貸出サービス：調査報告」(2014-2019)

F5 (関連を記録する注記)

関連とは、資料、個人・家族・団体、主題の間に存在する様々な関係性のことである。

体現形データのNOTEフィールドには、NCR2018 #43 (資料に関するその他の関連)のうち、他のフィールドに記録できない関連の情報について、必要に応じて、構造記述または非構造記述の形式で記録することができる。

【中略】

ア) 著作間の関連

【中略】

イ) 表現形間の関連

【中略】

ウ) 体現形間の関連

#43.1.0 通則

【前略】著作間の関連には、次のものがある。

- a) 派生の関連
- b) 参照の関連
- c) 全体・部分の関連
- d) 付属・付加の関連
- e) 連続の関連

例外として、リンク形成をしないで表現する関連もあります。

体現形データのNOTEフィールドには、他のフィールドに記録できない関連の情報について、記録することができます。ここでは、著作間の関連、表現形間の関連、体現形間の関連があります。

今回のケースでは、継続的に行われた調査の報告であることが「まえがき」に書かれていて、過去に、2014年から2019年の調査報告が存在することが分かりました。

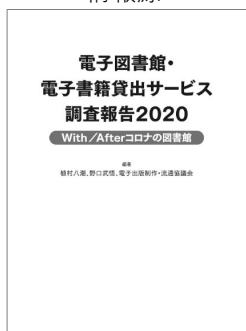
これは、言語や出版に関係のない関連ですので、「著作間の関連」になります。

更に、NCR2018年版を参照すると、「著作間の関連」のうち「e) 連続の関連」であることも分かります。

ここでは、非構造的記述で、画面のように記録しました。または、同じ内容を構造的記述で記載する場合は、「継続前(著作)・コロン・スペース・「電子図書館・電子書籍貸出サービス：調査報告」(2014-2019)」のような形となります。

まとめ

情報源



図書書誌データ

TR: 電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告2020 : With/Afterコロナの図書館 / 植村八潮, 野口武悟, 電子出版制作・流通協議会編著 || デンシトショカン・デンシショセキカシダシサービスチョウサホウコク2020 : With/After コロナノトショカン
PUB: 東京 : 電子出版制作・流通協議会, 2020.12
PUB: 東京 : 樹村房 #d
PHYS: xi, 205p : 挿図 ; 26cm
NOTE: 表現種別: テキスト (ncrcontent), 機器種別: 機器不用 (ncrmedia), キャリア種別: 冊子 (ncrcarrier)
NOTE: 「電子図書館・電子書籍貸出サービス : 調査報告」(2014-2019)の後継
AL: 植村, 八潮, 1956-|| ウエムラ, ヤシオ <DA17026461>著者
AL: 野口, 武悟, 1978-|| ノグチ, タケノリ <DA16740538>著者
AL: 電子出版制作・流通協議会 || デンシシュッパンセイサク・リュウツウキョウギカイ <DA18146196>著者

連携する目録に発展することを
目指して、今後ともご協力よろ
しくお願いいたします。

著者名典拠データ

<DA17026461>

HDNG: 植村, 八潮, 1956-||ウエムラ, ヤシオ

和図書の例をもとに、図書書誌データと著者名典拠データの作成方法を解説しました。図は新しいコーディングマニュアルに基づいて作成した図書書誌データと著者名典拠データの一例です。ここではコードブロックやEDフィールド、VTフィールド、CWフィールドなどの説明をしていますが、実際の業務では必要に応じてコーディングマニュアルのこれらの項目を参照してください。洋図書の場合も、同じNCR2018年版準拠のコーディングマニュアルに従います。この教材を参考にして、コーディングマニュアルを参照しつつ、新たな記述方法に慣れていってください。

NACSIS-CATはこれまでもこれからも、共同分担目録としてデータを蓄積しています。より連携する目録に発展することを目指して、今後ともご協力よろしくお願いいたします。